

ほほえみ 第50号



あけましておめでとうございます。2015年を迎え、同時に、ニュースレター「ほほえみ」も、第50号を数えることができました。これも、ひとえに読んで下さる皆様あってのことと思います。今年はひつじ年ですが、新たな行いをするのに良い年といわれています。皆様、新たな気持ちで新年を迎えられたことと思いますが、素晴らしい年となりますように、祈念いたします。

時間について

元旦を迎えると、誰もが一年をどう過ごそうとか、爽やかな気持ちで思いますし、一年の中で、最もこれからの時間について思うことの多い一日でもあります。しかし、そうは言っても、キケロは『老年について』の中で、「もう一年生きることができると思わぬほどの年寄り誰もいないのだから・・・」と述べているように、皆、何となく一年が過ぎるだろうと思っている、まあ今年は去年と大差なく、否、もう少し良いことがあればいいかという風に生きているのです。古来から、時間に関する考察は多いと思いますが、今回は、「時間」について取り上げてみようと思います。

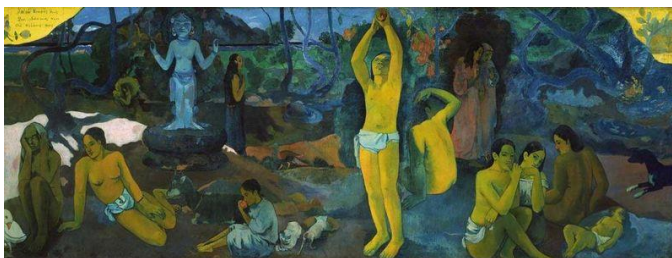
まず、時間に関する考察で精細を極めているものとして、仏教の時間概念、「十世」があります。これは華嚴經の「十世隔法異成門」に書かれているらしいのですが、普通、我々は現在・過去・未来と言いますね。十世ではさらに、現在の現在、過去、未来、過去の現在・過去・未来、未来の現在、過去、未来と9つに分けて、さらに、この全体を一世と見て、併せて十世というようです。幾何学で線分が無限に分割できるように、有限の時間を区切っても無限になってしまうのですね。言われてみれば、理解できるものの、区切られた時間を無限に捉えることは、根源的な発見の一つだと感心してしまいます。

アウグスチヌスは、キリスト教の聖人にも数えられる人です。彼の書いた有名な『告白』では、回心に至るまでの彼の歩んだ遍歴が赤裸々に書かれていますが、この本の後半に、時間に関するまとまった考察があることはあまり言及されません。

・・・それでは、時間とはなんであろうか。誰も私に尋ねなければ、私は知っている。尋ねる人に説明しようとすると、私は知らない。けれども、私はこれだけのことは知っていると言断することができる。すなわち、何物も過ぎ去らなければ、過去の時間はないであろうし、何物を到来しなければ、未来の時間もないであろうし、また何物も存在しなければ、現在の時間もないであろう。・・・時間は魂のなかで測られる。（『告白』第11巻）

東洋の時間が観念的であるのに対し、西洋は現実的ですね。時間とは何らかの運動を伴うとすると、現代の時計が原子の振動を測定して計測していることに思い当たります。アリストテレスは植物の生長も運動と捉えた人でしたが、我々も、日々、運動(変化)しているために、時間を旅しているのではないか。黙って座っていても、心臓は鼓動し、細胞は分裂し、消化・排泄は行われるのです。

ハイデガーに『存在と時間』という本がありますが、時間を生きるとは、存在を突き詰めていくことにもなるのかもしれません。時間というものを、考察すると浮かび上がってくることは、この議論が、必ず、今をどう生きようかというテーマに結びついていくということです。

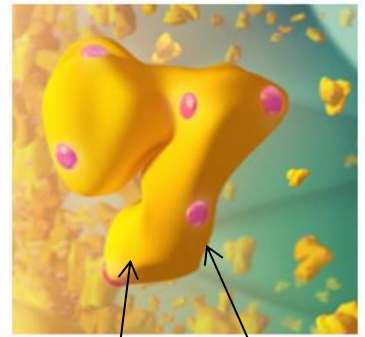


ゴーガン : われわれはどこから来たのか われわれは何者か
われわれはどこへ行くのか

肺癌に対する、ナブパクリタキセル（アブラキサン®）の承認について

2014年12月19日に、治癒切除不能な肺癌に対しナブパクリタキセル（アブラキサン®）が承認となりました。この薬剤は単独での使用では承認されておらず、ゲムシタピンとの併用となります。

ナブパクリタキセルは、従来のパクリタキセルをアルブミンに懸濁したものであり、根本的にはパクリタキセルの副作用が出ます。すなわち、白血球減少や末梢神経障害などが上乘せされる形となります。この薬剤の承認により、昨年のFOLFIRINOX療法の承認も含めて、切除不能肺癌に使用できる薬剤が世界標準となりました。しかし、全体的に肺癌の治療は副作用的には重戦車級となっており、体力的に限られた方の治療となってきた事実も否めないのが現状です。



アルブミン パクリタキセル

北陸新幹線

先日、帰省した時に、北陸新幹線が3月14日に開業と主要な駅には大きく宣伝されていました。現在は、首都圏から北陸地方に行くには、上越新幹線、ほくほく線、信越線、北陸線を経由しているのですが、一気に時間短縮されますね。従来の特急「はくたか」に乗るのも最後だと言ったら、うちの子が、現行の「はくたか」と新幹線「はくたか」の絵を描いて、車掌さんに渡していました。長い間、お疲れ様ということだったら幸いです。



地元の高岡駅もリニューアルしていました。思うに、高岡市は、瑞龍寺(国宝)、高岡大仏、古城公園など、見どころも多く、実は観光資源が多いのではないかと気づきました。瑞龍寺は、鉛の瓦が葺かれた前田家の菩提寺で、小学生の時は写生会に行きました。加賀の文化圏で、結構、和菓子屋さんも多く、お土産を選ぶ楽しみもあります。最近では、日本海の海の幸、氷見牛や大門素麺、氷見うどんなど、美味しいお店が多い街ということで、プチグルメの目的で訪れる方も増えているようです。



瑞龍寺

北陸新幹線開業で近くなりますので、是非、北陸にも旅行にいらしてください。文化や食材が異なるので、意外な発見が多いと思います。

MEMO

1月のがん化学療法科の予定

- | | |
|-------|--|
| 1月1日 | 元旦 |
| 1月7日 | 七草がゆ |
| 1月9日 | 柴田教授外来 |
| 1月12日 | 成人の日 |
| 1月16日 | 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ(予定) インフルエンザが落ち着かない場合は中止です。 |
| 1月23日 | 柴田教授外来 |

